

## 新たに所蔵となった文書を紹介します

今年度8月以降に、新たに12件の文書が収蔵されました。それら幾つかの内容を紹介します。

### 本当にあった墨塗り教科書

昭和初期教科書等教育関係資料209点



昭和初期教科書(初等科国語)

戦前、戦中、戦後の教科書の歴史を体系的に捉えることのできる資料群。ハナハト読本、サクラ読本の愛称で親しまれる国語読本をはじめとして昭和8年から28年代に発行された教科書がその大半をしめます。

GHQの指示によって教科書の一部を削除する“墨塗り”等が行われた敗戦直後の教科書は当館初の資料です。戦後の学習指導要領や副読本などの教育関係資料をあわせて、学校教育の歴史をひもとくことのできる資料群として注目されます。魚沼市・個人寄贈。(請求記号:E1026)

### 大河下流平野の悩みを見渡す

近世信濃川支流西川周辺絵図 1点

信濃川より分岐する付近から再び合流するまでの約50キロメートルの両岸村々を中心に描いた下書きで、幕領、長岡藩領、村上藩領、白川藩領、高崎藩領、旗本牧野家(後の三根山藩)領の色分けをし、かつ水利論争の位置関係を示すつもりであったものと思われます。作成年は特定できませんが、寛保元年(1741)以降文政6年(1823)までの間と推測されます。新潟市・個人寄贈。

(請求記号:E1016)

### 大正～昭和戦前期社会事業を具体的に知る

古志郡女工、出稼ぎ人保護組合文書綴り2点

大正中期、第一次大戦後の反動不況が進む中で社会事業が本格化します。中央社会事業協会の設立に合わせるように、県・郡レベルでもそれに連動した展開がみられ、かつ民間の活動も期待されました。

不況は深刻化して昭和初年の恐慌まで続きますが、職業紹介・児童保護・女工保護など各種事業は全国的に進展を見せます。新潟市・個人寄贈。

(請求記号:E1024)

なお、昭和4年(1929)をピークとした廃娼運動も関連活動として注目されます。

(CE9123新潟市斎藤正直・勝子両氏廃娼運動関係文書)

## 江戸・明治庶民の教養の源

近世及び明治初期往来物ほか30点



近世・明治初期往来物

庭訓往来<sup>ていきんおうらい</sup>・商売往来<sup>せうばいおうらい</sup>・早引き節用集<sup>せつちよう</sup>・永代雑書<sup>えいたいざっしょ</sup>・正字玉編<sup>せいじぎよくへん</sup>ら15点、「唐詩選」2点、明治13年「治罪法義解」<sup>うたいぼん</sup>7点、謡本等3点ほか。

一冊で実生活上の知識・作法を学びながら書法も学べる出版物が江戸時代の往来物です。題名はさまざまですが、「庭訓往来」と付けられていることが多いようです。

また、百科事典である「節用集」、「雑書」、漢字字典である「玉編」なども親しまれた名称です。明治になって学校教育が普及するに伴いこれらは第一線から退いていきます。新潟市・個人寄贈。

(請求記号:E1018)

## 良寛書の真髓を味わえる

良寛遺墨青山帖複製卷子 1巻

西蒲原郡粟生津村(現燕市)の学塾長善館初代鈴木文台(1796~1870)が秘蔵していた禅僧良寛(1757ころ~1831)の墨跡20点弱を昭和40年(1965)ころコロタイプ印刷して一巻に仕立てたもの。最初の一点の書き出しが「青山前与後～」とあることから、「青山帖」と呼ばれています。文台は少年のころ良寛に聡明さを褒められたといわれています。新潟市・個人寄贈。(請求記号:E1017)

## 昭和戦前の初等教育現場を知る 「学びの友」(小学5、6年、高等科用)

昭和8~9(1933~34)年刊の内16点

新潟県教育会が昭和8年(1933)夏から小学校各学年及び高等科の児童向けに編集刊行した週刊紙。B5版12ページ程度で、全般的な内容を学年に応じた記述で解説したり、作文や習字を紹介するなど多方面に興味を持てるよう工夫された紙面作りがなされています。昭和17年(1942)3月までの刊行は確認されていますが、終刊の時期は不明です。

新潟市・個人寄贈。(請求記号:E1020)

(県立図書館でも収書されています。)

## 第二次大戦中の国策情報誌

「写真週報」昭和16~17年刊の内27点



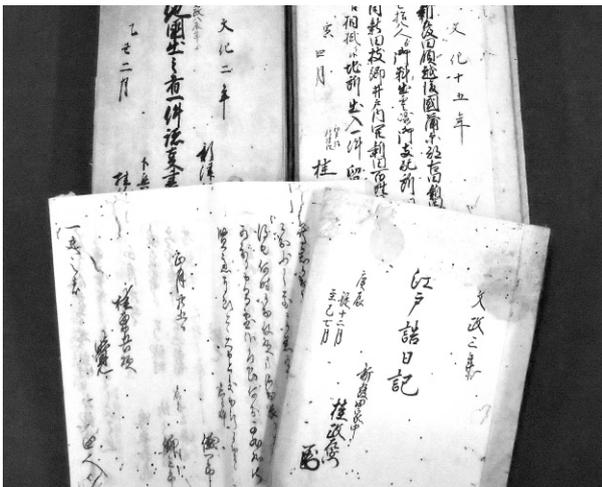
写真週報

昭和13年(1938)政府は内閣情報部(のち情報局)を置いて言論・報道の統制を一元的に強化する一方、A4版20ページのグラフ週刊誌を発刊、写真という視覚に直接訴える方法を積極的に採用して国策の宣伝普及を目指しました。明確な目的で撮られた報道写真が当時の社会を具体的に伝えています。終始一部10銭で市販され、人々の手に渡りましたが、長期にそろって伝存している例は必ずしも多くはないようです。終刊は昭和20年(1945)7月。新潟市・個人寄贈。

(請求記号:E1019)

## 江戸後期新発田藩領名主の記録

### 蒲原郡下興野村名主桂家文書5点



蒲原郡下興野村名主桂家文書

文化2年(1805)他国出の者一件留め帳

文化15年(1818)地所出入り留め帳

文政2年(1819)江戸詰め日記帳

文政13年(1830)貸し金出入り一件留め帳

天保5年(1834)変死人吟味留め帳

下興野村は現新潟市秋葉区、新津町に隣接する能代川沿いの農村で、「天保郷帳」には199石余とあります。さいたま市・個人寄贈。

(請求記号:E1023)

## 江戸時代村上町の町政運営の歴史を知る

### 村上町年行事所日記9(翻字)

江戸時代村上藩の本拠は岩船郡村上町(現村上市)で、「年行事所」という町会所があって、城下各町内の代表(年寄)らが出勤して、藩からの示達を取り次いだり、町政の運営、調整などを行っていました。そこでは日々の記録が書き継がれて簿冊にされ、いま正徳2年(1712)から明治に至る150年分が伝わっています。

この膨大な記録文書を活字化して歴史資料としての大きな価値を普及する試みは30年前にあり、正徳2年から文政10年(1827)までが8分冊で翻字・刊行されましたが、その後途絶えてしまいました。

今回地元の強い意思によって続刊が始まり、文政10年5月から同11年12月の分が9冊目として一集になっています。(県立図書館でも閲覧できます)

## コラム 古文書に見る人名

江戸時代から明治と時代の大きな変化があったことは、文書の内容を読まなくても文字の書き方や外見を見るだけですぐに分かることがよくありますが、古文書を時代順に見る機会がありましたら、文面の人名、特に男性のそれを追ってみてください。

というのも、江戸時代の文書にはよく見られた「○右衛門」、「○左衛門」、「○兵衛」、「○助(○之助)」といったおなじみのパターンが急に影をひそめてしまうことにお気づきになるはずです。

実はこれ、明治新政府の政策の反映なのです。新政府の最初の目標は「王政復古」であり、早急に武家政治以前の政体再現をするために、江戸幕府を中心とした従来機構のすべてを廃止・変更します。そのひとつに名前も含まれていました。

それは、上記のような名前のルーツはそもそも古代律令時代の官職名であって、到底一般庶民が用いるものではない、というのが大きな理由で、明治2年(1869)に改名を指示するお触れが出されます。

それらは「太政類典」という、明治政府の発した通達を網羅した簿冊にあって、関連した条文が年次を追って確認できるようになっています。当館にはマイクロフィルム複写版がありますから、いつでも閲覧請求可能になっています。

当時、それに従って改名した人は多かったようですが、厳格に徹底したものではなかったこともうかがえます。

また、「越後」や「信濃」といった国名を名前にすることも規制されました。

関連した大きな変化としては、戸籍を編成して一律に国民として把握するために、途中の改名を禁じたことです。それまでは男女とも成長や社会的立場の変化に伴って名前を変える、あるいは名前が変わることがよくありました。特に男性については徴兵上の必要から、政府は徹底させることを急いだのです。

# 越佐デジタルアーカイブ元年

リニューアルしたホームページが平成23年1月7日より稼動しています。それに伴う新しいコンテンツも皆さんの御利用をお待ちしております。



県立文書館ホームページ

## 「越後佐渡デジタルライブラリー」でビジュアルに

新潟県史概説版「新潟県のあゆみ」の記述とともに、当館及び県立図書館所蔵の歴史資料の画像(古文書・和装本・地図・絵図・書画・写真・絵葉書など、約2000点)を検索・閲覧することができます。



「上杉謙信書状」県立文書館所蔵

## 当館所蔵資料の検索がスムーズに

当館所蔵の古文書、複製資料(神社寺院仏堂明細帳・県報・新聞)、小中学校教科書・高等学校教科書が、検索可能です。今後、随時追加されます。



県立文書館所蔵検索システム「OPAC」

「当館所蔵資料検索」及び「越後佐渡デジタルライブラリー」は、当館ホームページ、または新潟県立図書館のトップページから、すぐにご覧になれます。

## ◎複写物郵送サービス(有料)を始めました

今のところ、新聞・神社寺院仏堂明細帳のみですが、複写郵送サービスが可能となりました。

対象文書は以下の2つです。

- **新聞：**  
新聞名・発行年月日を申込書に記入  
(日付単位で受付)
- **神社寺院仏堂明細帳：**  
社寺仏堂名を申込書に記入  
(社寺仏堂単位で受付)

なお、申込方法・料金等の詳細については、当館ホームページ「複写物郵送サービスについて」をご覧ください。

新潟県立文書館ホームページ  
<http://www.archives.pref.niigata.jp/>

編集・発行 **新潟県立文書館**

〒950-8602 新潟市中央区女池南3丁目1番2号  
 TEL. 025-284-6011 FAX. 025-284-8737  
 E-mail. archives@mail.lalanet.gr.jp